

「はじめに」に代えて 杉山桃子 2
一〇〇歳インタビューについて 山田泰生 12

第1章

「百^{ひやく}嫗^{おうな}」の心境 一〇〇歳インタビュー①

離れ小島で暮らしている 16
世間に文句をいう資格がなくなった 18
「百^{ひやく}嫗^{おうな}」という言葉は特権 20
断筆宣言後に書いた『九十歳。何がめでたい』 22
映画は創作のストーリー 23
一〇〇歳になってからは書いていない 26
庭の桜も立派なおばあさんになりまして 28
四〇代から整体のおかげで医者いらず 31

祝・百歳 新春談話「しつこく生きている」 35

第2章

老いはヤケクソ 一〇〇歳インタビュー②

真面目に老いてたらやりきれない 40
食事はそこら辺にあるものでいい 43
新聞は読んだ気になっているだけ 46
携帯電話は切ってしまったって放置状態 48
テレビはつけっぱなしでただ見ているだけ 49
一度だけ救急車のお世話になった 50
戦地へ「おめでとう」と送り出した 52
父の死が家庭を捨てる決心をさせた 54
占い師から「結婚生活は破綻する」といわれていた 57
最初の夫はモルヒネ中毒で死んだ 60

「我慢しない」が信条

一〇〇歳インタビュー③

- 自然体で生きるのは楽—— 64
- 結婚生活は我慢するかしないかの選択—— 67
- 好きなことをやっていたら元気になる—— 69
- 人生は行き当たりばったりでも何とかなる—— 71
- 生きていけば損をするのは当たり前のこと—— 73
- 神棚や仏壇をないがしろにしないのが品格ある暮らし—— 75
- ほんとうに強いのはお金やモノに執着しない人—— 78
- 生きているあいだに喜怒哀楽の感情は整理したい—— 80
- こうして座ってりゃ勝手に死んでいくんだろう—— 82

愛すべき家族と相棒たち

- 悪さした相棒たちに、会いたい—— 86

- 父・佐藤紅緑—— 88
- 私の父／父の死から学んだこと
- 母・三笠万里子—— 98
- 私の母
- 兄・サトウハチロー—— 102
- 我が校の猿／兄の訓え
- 乳母・ばあや—— 114
- この世にはイヤでもせんらんことがある
- 夫・田畑麦彦—— 118
- 臆面もなく飛び込んだ世界／十円借りにくる男／戦いの日々
- 師・吉田一穂—— 130
- 三畳間から天下を睥睨する／魅力ある人／先生の怒号
- 師・臼井栄子—— 140
- 私が絶った言葉

遠藤周作 ————— 144

おもろうて、やがて悲しき ——— 追悼 遠藤周作

川上宗薫 ————— 156

ああ、川上宗薫

北杜夫 ————— 176

端倪たんげいすべからざる。／愚弟 ——— 北杜夫

中山あい子 ————— 190

大悟の人

第5章

物書きの境地

小説を書きはじめる ————— 198

書くことに支えられる ————— 209

『ソクラテスの妻』 ————— 214

男性攻撃がメシの種に

『戦いすんで日は暮れて』 ————— 218

直木賞、素直に喜べず

『幸福の絵』 ————— 230

『血脈』 ————— 232

『晩鐘』 ————— 234

書けば書くほどわからない男

『九十歳。何がめでたい』 ————— 238

『九十八歳。戦いやまず日は暮れず』 ————— 240

『思い出の屑籠くずかご』 ————— 242

佐藤愛子年表 ————— 244